



ディープフェイクって？

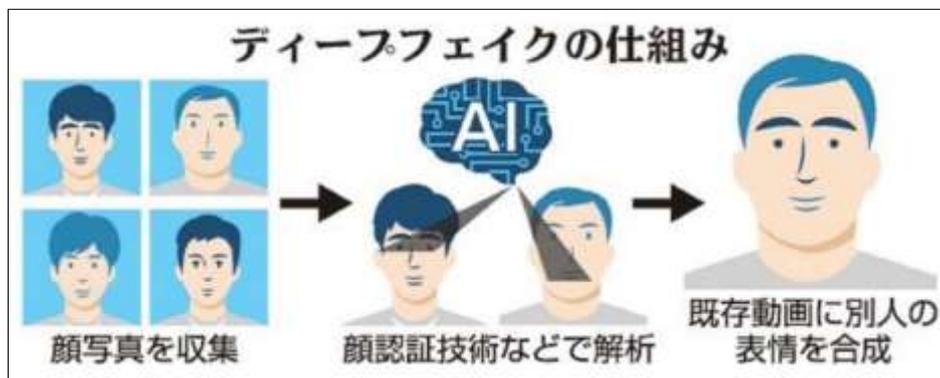
◆ AIで偽の画像や映像／悪用リスク高く注意

Q－最近「ディープフェイク」って言葉を聞くけど何のことかな。

A－AI（人工知能）を使い、実際に存在しない偽の画像・映像や音声を作り出す技術のことです。機械学習の一分野「ディープラーニング（深層学習）」という手法を活用し、大量のデータを基に、本物と区別がつかないほど精巧なコンテンツを生成できます。

Q－なぜ今、注目されているの。

A－AI技術の急速な進歩により、精巧な偽の映像や音声簡単に作れるようになったことで、悪用リスクが高まっています。例えば、政治家が実際に発言していない内容を、本当に話したかのように加工した音声や映像が拡散され、選挙結果などに影響を及ぼす可能性が指摘されています。海外では詐欺グループが企業の社長になりすましたディープフェイク動画を使い、不正送金を指示する手口で数億円をだまし取られる事件も発生しました。SNSや動画配信サービスでは、有名人の顔を別人の映像に合成するケースも見られ、プライバシー侵害や名誉毀損（きそん）といった新たな問題も浮上しています。各国政府や企業が対策に乗り出しています。



Q－だまされないためにはどうしたらいいの。

A－次のような点に注意すると良いでしょう。（１）情報の発信元が信頼できるか確認する（２）映像や音声に不自然な点がないか注意深く見る（３）一つの情報だけを信じず、他の情報源と照らし合わせる。こうした習慣を身に付けることで、偽情報を見抜く力を養うことができます。

Q－ディープフェイクって怖い技術なんだね。

A－悪用されると危険な技術ですが、正しく活用すれば有益な場面もあります。例えば、富山にゆかりのある歴史上の人物の映像や音声を作成し、観光PRや歴史教育に活用することなどが考えられます。今後は悪用だけでなく、社会に役立つ形で注目される技術になってほしいですね。

（この連載は北陸経済研究所の藤貴伸が担当しました）